国際フィールドワーク（オランダ）報告

本国際フィールドワークでは、【ライデン大学（協定校)】と【アムステルダム自由大学（協定校として準備中)】を中心に研修を実施した。(訪問国：オランダ、ベルギー、シンガポール）下記４つを活動軸として、2024 年８月 27 日（火）～９月７日（土）にかけて海外活動を展開した。

① 海外現地との交流を通じて国際的視野を磨き、自分の世界観を広げる
② 経済・産業関連施設を視察・調査し、経済のグローバル化の理解を深める
③ 現地の文化と接することにより、多様な価値観を尊重するマインドを育てる
④ 英語力のレベルアップとコミュニケーション力をつける

日程表（一部抜粋）

8/27 ～28	(Tue/ Wed)	移動、アムステルダム到着後、市内散策など
8/29	(Thu)	在蘭商工会議所訪問、国立美術館見学など
8/30	(Fri)	**アムステルダム自由大学ワークショップ**①、運河クルーズなど
8/31	(Sat)	アムステルダム市内観光（グループ行動）
9/1	(Sun)	Van Gogh ゴッホ村、ゴッホミュージアム、Windmill St Victor 見学など
9/2	(Mon)	Den Bosch Cathedoral、**Vanderlande（豊田自動織機）訪問**②
9/3	(Tue)	ベルギーへ移動、アントワープ見学
		ブルッセルに移動後、EU議会見学などののち、オランダへ移動
9/4	(Wed)	ライデンへ移動後、**ライデン大学にてプレゼンテーション**③
		キャンパスツアー、ライデン大学日本語学科学生との交流、ディナーなど
9/5～6	(Thu/Fri)	オランダ・スキポール空港からシンガポールへ移動
		シンガポール着後、シンガポールツアー参加、
		萩原電気（Singapore Hagiwara）にて研修、
		萩原電気関係各位、Microsoft 現地部長の方を交えたディナー
9/6～7	(Fri/Sat)	中部国際空港着、荷物引き取り後に解散

本科目は経済学部佐土井を主担当に、太田が現地引率を手伝う形で展開された。４～７月の講義期間においては、オランダの歴史や経済を概観するといった座学と受講学生によるオランダでの英語プレゼンテーションの準備、作成、練習などの期間を経てフィールドワーク活動に臨んだ。

以下、日程表のうち①、②、③について概要を紹介する。

① アムステルダム自由大学 Vrije Universiteit Amsterdam ワークショップ
Economic Implications of Aging Populations on Sustainable Development Goals

(SDGs)

－Perspectives from the Netherlands and Japan

アムステルダム自由大学では、Prof. Theo Kocken 指導の下ワークショップを行った。同教授は映画 *Your Hundred year Life* の製作者で、年金制度のプロフェッショナルでもある。その教授らに対し、本学学生は事前に用意した下記４テーマを班ごとに英語でプレゼンテーションし、貴重な意見を頂いた。発表のなかには日本と異なるオランダの制度を紹介したり、公的統計を駆使して今後を見据える提言を行ったりする班もあり、教授からは「新たな視線、考え方をもらった」との言葉も頂戴した。学生たちも強く刺激を受けていた。

アムステルダム自由大学での発表

① Life Planning For Young People（若者のライフ設計）

② Our Pensions and the Future (私たちの年金と未来)

③ The Different Types of Elderly People（人によって異なるリタイヤ後のライフ設計）

④ Our Future with Dementia（認知症と私たちのミライ））

② Vanderlande 訪問

同社は、1949 年設立のオランダ企業である。小売業、小包・郵便事業向け物流システムに強みがあり、空港の旅客手荷物処理システムにおいては世界トップシェアを誇る。同社は 2017 年、物流ソリューション事業強化のため株式会社豊田自動織機に買収されている。今次の訪問では、Vanderlande 研究開発部門の責任者と日本からの出向者の方に対応頂いた。

訪問時は企業概要を詳細に説明いただき、初めて「物流業」に触れる学生たちは B to B 事業のあり方を学んだほか、企業がどのような戦略をもって買収や企業提携などに着手するのかも興味深くインタビューしていた。加えて R&D センター視察の機会にも恵まれ、モ

ノづくり以外の研究開発のあり方にも関心を抱いていた。

③　ライデン大学 Universiteit Leiden における学生間交流

ライデン大学はオランダ最古の大学であり、シーボルトが日本からの帰国後、同大学で日本について教鞭をとったことから、世界で初めて日本学科が設けられたとされる大学である。今次は同学科の学生たちと交流した。

１～４年生と異なる年次の学生が多く参加し、ここでも本学部学生たちによるプレゼンテーションを行った。まず、①アムステルダム自由大学向けに用意した内容とは異なるオランダの学生たちも楽しんでもらえるような内容を発表し、その後、アムステルダム自由大学での 4 本の発表を行った。日本の駄菓子文化や、スポーツ活動、日本語「やばい」が持つ意味多様性や、前もって名城大学で撮影した日本の大学生の日常風景など、オランダの学生たちも楽しく聴き入っていた。時には笑いもおき、英語でのプレゼンが同世代に「うけた」ことに、本学部生たちも手ごたえを感じた様子だった。

導入用プレゼンテーション

② Dagashi（駄菓子）

② Our Life at Meijo University (名城大学生の一日)

③ Sports and Communication（スポーツとコミュニケーション）

④ Yabai（やばいの用法)）

次に、人生 100 年時代をどう生きるか（日蘭比較）について学生たちが調査したプレゼンテーションについて話し合った。

① Life Planning For Young People（若者のライフ設計）

② Our Pensions and the Future　（私たちの年金と未来）
③ The Different Types of Elderly People（人によって異なるリタイヤ後のライフ設計）
④ Our Future with Dementia（認知症と私たちのミライ）

その後、皆でディナーを共にする場面では、互いに英語と日本を交えてオランダの名物料理やパンケーキを堪能した。

以上、概要報告である。ほかにも現地の方を宿泊先にお招きして BBQ を楽しんだり、実際に稼働している風車（小麦粉挽き）を見学し、風車の仕組みを教えてもらったりと「国際」フィールドワークならではの体験も多く堪能した。計 21 名（うち教員２名）の大きなグループだったが、１～３年生まで皆が自分の役割をきちんとこなし、時には他の学生を助けながら 12 日間の行程を終えた。

学生たちが口をそろえてコメントしたのが、今回のフィールドワークのスケジュールの「濃さ」である。企業や大学訪問などハードな面と、現地の方との交流や文化体験、視察などソフト面の両方を兼ねた今回のプログラムは、いわゆる旅行ツアーでは体験できない内容である。この間、学生たちが体得したことは、海外の生活、文化、企業のあり方だけではなく、今後、社会に出た際にチャンスが訪れるだろう海外赴任時のイメージや、現地の方とのコミュニケーションのとり方など多岐に亘る。情報社会と言われる現在において、海外のそれを得るツールは多くあるが、大学生の今、自分たちで考え抜き、体験できたことは必ずや彼らの長い人生において大きな糧になると感じさせられたフィールドワークでもあった。

（担当：佐土井有里　太田志乃）